

2007年度中間期 国内機関投資家・アナリスト向けテレカンファレンスQ&A (要旨)

日時：2007年11月16日 17:30～18:10

回答者： 藤方 SFH 副社長

嶋岡ソニー生命専務

藤山ソニー損保取締役

中村ソニー銀行取締役

Q&A (要旨) (敬称略)

Q) ソニー生命の資産運用収益において、不動産賃貸料が前年同期比大幅に増加しているが、何が要因か？また資産運用費用における賃貸用不動産等減価償却費とも関連があるだろうが、この傾向は今後も続くのか？

A) (生命) 前年度の中間期は、品川のビル (ソニー (株) の本社ビル) が稼動前であったため収支はマイナスであったが、当中間期は本格稼動により賃貸料が入り収益が大幅に改善した。今後も当中間期の傾向は続くものとする。

Q) 銀行における外貨預金の増加要因は？

過去2年間伸びが止まっていたが、期中の円高による影響か？

A) (銀行) ご指摘のとおり (8月以降の) 円高による外貨預金への需要増加によるものである。

Q) 銀行における金利スワップ等デリバティブ費用負担が営業費用に含まれており、かつ費用負担が大きいと聞いていたが、今般の市場環境によるマイナス影響はないか？

A) (銀行) デリバティブ取引については、その他業務収益およびその他業務費用に含まれているが、前年度は債券のトレーディング及び関連デリバティブの運用成績が悪かった。当中間期はトレーディングの運用損益が大幅に改善したため、その他業務収支は、(前年同期比) 3億円くらい改善した。

Q) 損保においてシステム投資による費用負担は下半期から増加するのか？

A) (損保) ITの強化は当社にとっても重要な課題と認識している。今後もシステム投資は継続するが、特にコスト負担が発生するのは下半期ではなく、来期以降の見込みである。

Q) 業績予想における主要子会社の単体ベース内訳は開示しないのか？

A) (SFH) 開示していない。

Q) 業績予想において、各社でどのくらい増加したのかについては開示できるか。

A) (SFH) 当中間期についてはセグメント情報（の実績金額）を開示しているが、通期（予想）の内訳（金額）についてはご容赦いただきたい。

Q) 生命において EEV を開示する予定は？ T&D が当中間期より開示し、Traditional EV より若干減額となったが、新規契約高の多いソニー生命の場合は Traditional EV より増額するのではないか？

A) (生命) EEV は来年度以降開示の方向で検討している。EEV への転換による影響についてはコメントを控えたい。

Q) 生命のライフプランナーの採用状況、在籍数はどのような状況か？

A) (生命) 在籍数は前年同期比 1.6% 減少。営業組織の業績は質（生産性）と量（在籍数）の掛け算で、生産性の向上と共に量の拡大もついてくる。いたずらに量を追うと質の低下を招き悪循環となることから、厳選採用をしており、個々の生産性の向上に注力している。

Q) 新契約高の質的内容についてコメントいただきたい。（新契約高はプラスだが新契約年換算保険料ベースではマイナスである点について）

A) (生命) 死亡保障は増加し、医療保険はじめ第 3 分野が減少している。新契約高は前年同期比増加しているが、年換算保険料はほぼ横ばいである。ソニー生命は死亡保障の商品に軸足を置いており、新契約高が増加したことは好ましいものと認識している。

Q) 生命において前年度下期に基礎利益のその他臨時費用として 311 億円の責任準備金繰入れを行っているが、今期以降の繰入れ方針は？

A) (生命) 昨年度は、（商品区分としての収益性には問題なかったものの、個々の契約において）実際に収入する営業保険料が、一部の商品について責任準備金の計算で想定されている保険料に対し不足する場合の将来にわたる不足分を、過去における不足分も含めて年度末に責任準備金の繰入れを行った。今後は、そのような大きな繰入れは発生しないものと考えている。

Q) 生命において下半期において他にコスト増となる特殊要因は何かあるか？

A) (生命) 特にコストとみているものはないが、資産運用等の環境を保守的にみている。

Q) 生命における解約・失効率が前年同期比で上昇しているが、ライフプランナー数が減少したことが背景か？

A) (生命) 保険金額ベースの解約・失効率は増加しているが、件数ベースで見るとむしろ低下している。これは高額単価の解約・失効が前年に比べ多かったことによる。一方、

個人保険の継続率は上がっており、フラクチュエーションの範囲内であり、半期ベースでは解約・失効率の増加について判断することはできない。

Q) 生命における当中間期の平均予定利率、逆ざや額は開示しているか？

A) (生命) 半期ベースでの平均予定利率は開示していない。逆ざや額は前年同期 177 億円に対し、当中間期では 144 億円と 33 億円減少。

Q) 生命における一般勘定のうちの、株式と転換社債のシェアは？（ソニー生命の一般勘定の内訳において、株式と転換社債は金銭の信託にも含まれるため、純粋なシェアがわからない。）

A) (生命) 株式が 1 割弱で転換社債が 1 割強であり、07 年 3 月末時点と基本的に大きな変化はない。

以 上